

「技能実習生を帰国の日までしっかり指導」

14:20~14:40



2022年5月27日
アイブリッジ協同組合
業務推進局 黒川靖

ミャンマー人技能実習生 アイブリッジ協同組合の取り組み

日本の水際対策もやっと緩和されました。

3月25日を皮切りに、現在も続々と待機していたミャンマー人技能実習生が入国しています。

入国後、一か月間は制度で定められた入国後講習を実施し、配属となります。

そして、その後、実習生は、病院や介護施設での実習に加えて、

1年目：毎月の巡回指導と、3か月毎の監査、そして、初級試験

2年目：3か月毎の監査

3年目：3か月毎の監査と専門級試験・日本語能力試験N3

を経て3年間を終えます。

上記をおそらく介護系の実習では当たり前のことです。

私たちアイブリッジ協同組合では、

より充実した実習に寄与し、3年間の実習を終え、

・技能実習3号へ進む実習生

特定技能へ進む実習生

・帰国して自国の介護事業に貢献する実習生

それぞれが、より豊かな進路を歩むべく、様々な努力をしています。

何をしているのか！ 次のページからご紹介いたします。



アイブリッジ協同組合

iBridge

1) アイブリッジ協同組合の原動力

アイブリッジ協同組合が、介護・医療の現場で、
他にはない「価値」を創造できるとすれば、それは、まさに組合をリードする「リーダー」にあります。



代表理事 佐藤敏信

久留米大学特命教授
医師・医学博士
元厚生労働省健康局長



理事会会長 岡村幸彦

社会福祉法人愛誠会理事長
薬剤師
株式会社アイセイ薬局創業者



監事 藤木則夫

元国立病院機構理事
元東京医療保健大学特任教授
元厚生労働省東北厚生局長

組合のリーダー（経営陣）は、高校野球に例えれば監督のようなもの。

監督のノウハウがチームを育て、甲子園へと導きます。それは、3年と期限がある高校生にとっては、とても大切なファクターです。

医療・福祉の専門家としての「**知識**」、第一線で活躍している「**経験**」というノウハウ、そして何よりも医療福祉にかける「**思い**」が
アイブリッジ協同組合の原動力です。



2) アイブリッジ協同組合研修センター

静岡県伊東市に独自の研修センター

「アイブリッジ協同組合研修センター」

を設置しています。

ここでは、

- ・介護実習
- ・日本語実習

など入国後講習を行っています。

近くの社会福祉法人とも連携した
実践的な介護実習

優秀な日本語講師陣による
日本語講習
が行われています。



ミャンマーでも介護の専門用語を
学んでいます。
その専門用語を介護や解除の
現場で、利用者・入居者の方に
わかりやすい日本語で伝える必
要があります。



ミャンマーでは、
停電が多く、通電火災などを
防止するために、
使わない家電は、すべて、
コンセントを抜く習慣があります。

研修センターのスタッフも、技能実習の指導にとどまらず、
医療介護の豊富な知識で対応しています。



アイブリッジ協同組合

iBridge

3) 3年間を通じた訪問指導・定期監査ノウハウが活かされています



合わせて
3年



アイブリッジ協同組合では、
訪問指導、定期監査でも
実習実施状況や日誌の確認などにとどまらず
医療福祉のより豊かな視点から

- ・アドバイス
- ・質問への対応
- ・相談への回答

をしています。

4) 初級試験・専門級試験を手厚く支援

学科試験事前準備

医療介護専門用語の適切な理解

- ・介護医療専門用語の正しい理解が必要になります。
(ただし漢字へのフリガナはついていません)
- ・従って、事前に専門用語の取得確認を自分でする必要があります。

適切な医療介助知識の習得

○×形式での解答を求められます。内容を正しく理解したうえで、正しい判断をする知識が求められます。
従って、**事前に過去問題や練習問題を解いて知識の確認**をし、仮に問題を間違えた場合、知識取得をし直す必要があります。

実技、学科試験でも、テキストの読み込みなどの準備段階や

実際のリハーサルでも医療福祉に精通したスタッフが助言、

完成度の高い準備で、当日も実習生の本領が発揮できる環境を支援

実技試験事前準備

課題介助への適切な対応練習

移動や食事の介護は実際の場面を確認し評価することから、**移動の介助や食事の介助を実習生自身の判断で行うこと**が求められます。過去問題を実習生が事前に行い、指導員様が確認し、課題が見つければ修正していくことが必要となります。

実技試験リハーサル準備

緊張せずに行えるように、事前に**リハーサルをする必要**があります。

介助記録への適切な理解と報告練習

- ・食事介助・事故防止、安全対策は、**実習生が利用者の記録を確認し、評価者の質問に答える**必要があります。
- ・**実習生が正しく利用者記録を読解し、第三者へ報告できる**ようにすることが要求され、事前に読解、報告練習を指導員と実習生でする必要があります。



5) 日本語フォローアップ講座で生きた日本語力

N3合格に向けて！

実習生は、

- ・母校の日本語講師
- ・実習生同士のネットワーク

を利用し、YouTubeやテキストの情報を利用し
仕事が終わる、夕食後の数時間
日本語教育に充てています。



こんな実習生の為に、アイブリッジ協同組合では、

アイブリッジ研修センターの講師陣による配属後カリキュラムとして、

「日本語フォローアップ講座」をおこなっています。

N3合格コース、介護コースなど、実習生の学習進捗度合や要望
にあわせて多彩なカリキュラムを用意しています。

現在、開講中の講座です。

期間：2022年4月～6月

回数：2回／月（計6回）

時間：平日の夜（18時～） または、土日
およそ1時間半から2時間

※オンラインによる授業

費用：無料

使用する教材は、組合にて用意しメールで送信。



アイブリッジ協同組合

iBridge

6) 実習だけではなく、プライベートな相談にも応じています。

技能実習生は、実習に関する相談だけではなく、日常生活でも様々な課題を抱えています。

そんな実習生に向けて

iBridge Call (アイブリッジコール)

を開設しています。

ここでは、仕事や生活の相談を受け付けています。

受付：月曜日から金曜日

19時～21時(祝日を除く)

コンサルタント：HNIN MAR MYINT
(ニンマーミン)女性

LIN HTEIN OO
(リンテインウー)男性



アイブリッジ・コール						
5月 相談対応者 スケジュール						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
					☺	
8	9	10	11	12	13	14
	☺	☺	☺	☺	☺	
15	16	17	18	19	20	21
	☺	☺	☺	☺	☺	
22	23	24	25	26	27	28
	☺	☺	☺	☺	☺	
29	30	31	1	2	3	4
	☺	☺				



アイブリッジ協同組合

iBridge

7) 技能実習（1号・2号）終了後の進路相談について

技能実習生の進路は、

- ・帰国
- ・3号実習
- ・特定技能

と複数の選択肢があります。

大切に心を込めて聴く！



現役の実習生は

独自のネットワークから情報得ることが多いようです。

しかし、そのネットワークは、“噂”や“予測”の域を出ることが少ないの実情です。

実習生は、

- ・一人暮らしがしたい
 - ・都会济みたい
 - ・友だちのそばに行きたい
- などの目の前の希望に終始し、
毎月のように変化します

医療機関や介護施設では、

帰国するのか日本に残るのか
実習した施設に残るのか残らないのか

揺れに揺れている実習生に
苛立ちを感じる場面もあります。

アイブリッジ協同組合では、

**専門のスタッフが実習生と個別に面談
日本人の学生の進路指導のように接し、実習生の本当の希望を引出し、
その希望のメリット・デメリット・リスクを丁寧に説明し
実習生と実習実施者の橋渡しをしています。**



アイブリッジ協同組合

iBridge